

平成 27 年 11 月 1 日 (日)



### 地域の縁で絆を！

副会長 仙北 英治

皆様には益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。また、平素より町内会連合会運営にご理解、ご協力を賜りお礼申し上げます。

今期、副会長に選出され、広報部、地域安全部担当に身の引き締まる思いであります。

近年、少子高齢化の急速な進行を背景に高齢者の孤立化、子ども達の悲しい事件が多発する中、防犯の見守り活動、異常気象による集中豪雨と自然災害等の防災を構築する事が必要と考えます。

各単町の運営では解決出来ない問題を町連全体の課題として検討して取り組み、安全、安心な住み良い藤野地域にしなければなりません。

行政窓口で折衝、相談しても解決出来ない問題は

① 排雪事業費 (パトナー

シップ) の値上げがあります。

冬期間の雪道で救急車や消防車が通行できる生活道路の維持・確保が必要ですが、毎年事務的に値上げの通知で実施しておりますが各町内会の運営費を圧迫しており共通の課題として、南区選出の市議会議員と懇談の機会を持ち行政に働きかける対応が必要と考えます。

② 高齢者や交通弱者の買物や通院で不便な方々の為に地域巡回バスの運行問題。

③ 災害時の緊急避難指示のルール等、行政の手が届かない「福祉」「防災」「環境」問題を考え「住んでよかった藤野」にしなければなりません。皆様のお力を借りながら地域の縁で絆づくりに努力を致します。

第二十五回 藤野ふるさとまつり

「住んでよかった藤野」を  
感ずるひととき

第二十五回藤野ふるさとまつりは、八月一日(土)ホームマック駐車場を会場にして開催された。わずか一日の開催とはいえ、町連の定期総会で開催要領が決定した後、この日のために多くの会議が持たれ、七月十五日(水)の実行委員会全体会議で詳細の協議がなさ

れ班毎に準備状況を点検し、当日を迎えた。天候も上々、実行委員全員による会場設営もすすみ、九時四十五分、オープニングセレモニーのスタート。各町内会踊りグループによる藤野音頭は、例年のことながら、祭気分を大いに盛り上げる。

午前十時、開会を告げる打ち上げ花火。開会宣言は、高橋明利副実行委員長(藤野中商工会会長)。その後、寺田良男実行委員長(藤野地区町内会連合会長)の開会挨拶、来賓代表として高野馨南区長からの挨拶が続く。十時二十分、いよいよステージプログラム



ムが開始。スタートはいつも恒例の藤ヶ丘保育園・幼稚園児による太鼓演奏。会場からは大きな拍手に包まれるも、いつもより元気が感じられないのは暑さのせいなのか?以後藤野南小学校スクールバンドによるバンド演奏、藤野本通クラブリズムリードホンの方々によるリズムダンスと続く。その後、徳光利雄さんによるサックス演奏。「君恋し」「さそり座の女」等、名曲に会場もうっとり。津軽





三味線合奏、ダンスで午前  
の部も早や終盤へ。  
ここで昼の時間を利用し  
て毎年行われる、子ども会  
によるゲーム。統制のとれ  
たりーダーの動きには感心

させられる。午後の一番組  
ッターは「空手の演武」。  
板割り、かわら割りと続く  
子ども達の真剣なまなざし  
には盛んな拍手が送られて  
いた。特に低学年の子ども

たちの演武にはひとときわ大  
きな声援が。その後はフラ  
ダンス、舞踊が続き、十三  
時五十五分、藤野中学校吹  
奏楽部による演奏が始ま  
る。  
年々高まるレベルの高い  
生演奏を聞けるのは大きな  
喜びであり感謝したい。  
今年の初出場はNAOM  
Iさん。これからも藤野の  
住人として注目していきた  
い。舞踊体操の後はすつか  
りおなじみになった庄田道  
則さんによるマジックとサ  
ックスの演奏。続いては藤  
野が誇る伝統文化、藤野太  
鼓保存会による太鼓演  
奏。限られた回数しか聞い  
ていないが、人々をよわせ  
る響きができてきたのもし  
い限り。  
最後の演目は、歌手の原  
大輔さんによる友情出演。  
今年で七回目になるとい  
う。「浦河の夜」から始まり  
「ススキノ午前0時」「秋と  
う」への歌いつぐ中で途中  
の語りにも内容的に聞かせ  
るものを感じたひとときで  
あった。



最後を飾るのは恒例のお  
楽しみ抽選会（藤野中央商  
工振興会、藤野振興会提  
供）引き換え券を握りしめ  
発表される当選番号と名前  
に一喜一憂。今年は例年に  
比べて当選者数と景品もや  
やレベルアップといったと  
ころか。  
こうして「花と緑、文化  
と福祉」を街づくりの基本  
とする藤野にとつての夏の  
最大の風物詩はフィナーレ  
を迎えた。

年に一度。ふるさと藤野  
に住む人々が心を一つにし  
て準備の段階から、わずが  
一日のためとはいえ労働を  
惜しまず祭りを盛り上げて  
くれました。実行委員会の  
方々を含めご支援を頂いた  
関係機関の方々に厚く御礼  
申し上げます。多くの人々  
に支えられ、藤野の地域に  
は一つの財産として心のふ  
れあいが残され、行事の中  
でしっかりと絆が生まれ  
たことと思います。

# 文化展・フラワーガーデンニング写真展

第二十一回文化展、第十  
四回フラワーガーデンニング  
写真展は、九月十二日  
(土)、十三日(日)町づく  
りセンターアリーナで行わ  
れた。

子ども達が喜びそうな木  
のおもちゃのいろいろ。「木  
賊に含まれるケイ素から朱  
色を」と説明。味わいのあ  
る木賊焼の陶芸作器が並  
ぶ。水彩画の柔らかな筆捌  
き。画面いっぱい広がる  
ポプラの大樹はなかなかの



迫力である。繊細で優しさ  
を感じる押し花絵、ししゅ  
う絵や和紙ちぎり絵。色彩  
に溢れるアートフラワー。  
胡瓜等の野菜の絵「それは  
それは大収穫百三十八本、  
我が家の野菜畑はもう秋で  
す」と添書きがある。生活  
感があり四季の移ろいを感じ  
させる絵手紙。布を効果  
的に使った布あそびは趣が  
ある。十数組のお雛様が並  
ぶ。それぞれが違った表情  
に心が和む。可愛らしい。

約九十人の方から約九百  
点の作品が寄せられたと文  
化部の方はお話になる。ま  
さに文化の薫り燦々であ  
る。

アリーナの壁にはガーデ  
ニングの写真。藤野の方の  
花を愛しむ気持ちが見え  
る。鉢植えの花や庭に咲く  
花の写真が並ぶ。特に庭に  
広がる藤が圧巻。ガーデン  
ニングの写真から実際の景を  
想像することは楽しいこと  
である。

## 連町 パークゴルフ大会開催

九月六日(日) 気温23度  
秋晴れの中、総勢57名(男  
性34名・女性23名)の参加  
のもと開催されました。

寺田町連会長のご挨拶  
後、参加者は4コースに分  
かれ熱戦が繰り広げられま  
した。

- 成績は、
- 男子優勝 (93打)
- 澤井松雄さん(第二町内会)
- 女子優勝 (96打)
- 関 初恵さん(緑町町内会)
- ホールインワンも12個と



過去最高、レベルの高い大  
会でした。

あちらこちらから歓声が  
上がり交流を深めることが  
できました。

## 平成二十七年度 少年少女 ドッジボール大会

主催 町連体育部

七月十二日(日)、藤野  
南小体育館で小学生の参加  
による標記の大会が開かれ  
た。

開催にあたって、寺田町連  
会長より「小学一年生から六  
年生が参加しており、いたわ  
りの心を大切に、友達を増や  
そう」と話があった。  
続いて、ルール説明後試  
合が始まった。個人参加の  
子どもが多かったので、合  
同チームを編成した。

- ◎チーム編成 各11名ずつ
- ・(合同A) 藤ヶ丘南、藤  
ヶ丘西、富士見、白樺高  
見台、三区
- ・(合同B) 藤野公園、西  
藤野



- ・(合同C) 高台、野々沢  
(十五島)
- ◎試合結果
- ・優勝 合同A (三勝)
- ・準優勝 十五島 (二勝一  
敗)
- ・三位 合同B (一勝二  
敗)
- ・四位 合同C (三敗)

試合中、高学年同士の力  
のこもった攻防や、高学年  
が相手チームの低学年に優  
しく投げる等、厳しさと心  
のふれ合う姿が印象に残っ  
た。

# 町内会紹介

## 安全・安心で住みやすい町づくり

藤野第三区町内会 会長 船越 盛正



我々が生活の拠点として  
いる藤野三区町内会は藤野  
連合町内会十九単町の中  
でも最大規模の町内で一千世  
帯を超える状況と成つて来  
ております。一年間の事  
業、行事も十七種に及びま  
す。又高齢化も進んで六十  
五歳以上の人口も六百八十  
名を超える状況と成つて参  
りました。当町内会に於て  
は福祉推進委員及び民生委  
員はもとより、町内会全体  
で見守り、声かけ、助け合  
いの絆を高め、安全、安心  
で住み易い明るい、きれいな  
町づくりを目指しその為  
の行事も実施しております。

今後に重点を置いている  
のは福祉と防災助け合い、  
の精神を高める事に力点を  
置いて町内会の運営に取り  
組んで行きたいと思つてお  
ります。また、町内会の運  
営に関しては役員の不足と  
若手の参入が無く先き行き  
不安材料の一つです。女性  
の方々の参画が少くこの点  
も今後の課題です。会員の  
方々が町内会に興味と関心  
を持つてくれるか模索して  
おります。当三区町内会は  
地形的に坂が多く交通手段  
も限られており車か徒歩で  
自転車等の使用もむずかし  
くコンビニもなく買い物、  
通勤、通院等に皆さん苦労  
しております。無料巡回福  
祉バスの運行開始の一日も  
早い実現が待たれる所  
です。



## 創立70周年を経て次の代へ送り出す

藤野第一町内会 会長 菅野 暁子



地域の皆様にお世話にな  
り、子、孫達がいっ帰つて  
きても、「温かい街に生まれ  
た故郷が好きです。」と云  
つてもらえる町内であるよ  
う願っております。

昭和十九年戦時下大変厳  
しい時代、地域の皆様が相  
互扶助を掲げ、「藤野第一部  
落会」(藤野第一区町内会)  
を創立、爾来七十周年とい  
う記念すべき年を昨年迎え  
ました。先達の皆様が多く  
の苦難を越えられ一歩ずつ  
積み重ねて現在の立派な町  
内会を創り上げてこられた  
こと、歴代の役員や関係機  
関に敬意を表します。

昭和五十九年町内会創立  
四十周年記念事業として町  
内会家族大運動会を開催、  
以来第三十二回を迎えまし  
た。この大きな節目に責任  
ある立場に関わりますこと  
を本心に光栄と思つており  
ます。この街に住み半世紀  
を迎えようとしています。

今日、町内会組織率の低  
下が叫ばれています、本町  
内会も会員数は徐々にでは  
ありますが、減少しており  
ます。一方では緑に恵まれ  
た自然環境を求め若い世代  
等の移住による新規入会者  
もあり世代交代などで社会  
環境の変化が顕著です。私  
たちは時代ニーズに対応で  
きるよう発想の転換や若い  
力を借り当面する組織体制  
問題などに加え近い将来対  
応がせまられる会館の老朽  
化対策など、諸課題に取り  
組み、未来に向け、魅力あ  
る住み良い活気ある街にし  
ていくことが、町内会の使  
命であると考えます。

この記念すべき七十年の  
歩みを綴り町内発展の基礎  
と成られた、先人・先輩の

方々の労苦と偉業を後世の  
人たちへ受け継がれる事を  
望み、これを機に心新たに  
して、町内の皆様とともに  
に、藤野第一町内会が住み  
よい街として、さらなる発  
展が出来るよう一層努力し  
ていきたいと思ひます。

### 夜間住民集団健診のお知らせ

通常平日に実施している  
健診を夜間に行います。当  
日は医師の健康講話(要予  
約)もあります。(受付時間  
が異なります)

健診日時：十二月十一日  
(金) 十八時～十九時三十  
分受付

講話時間：十七時三十分受  
付、十八時～十九時

会場：藤野地区センター

対象：四十歳以上の国民健  
康保険加入者の方(講話は  
どなたでも可)

持物：健康保険証、受診券

講話申込：藤野地区センター

☎59212002

☎58115211

詳細：南区健康・子ども課

藤野歴史散歩

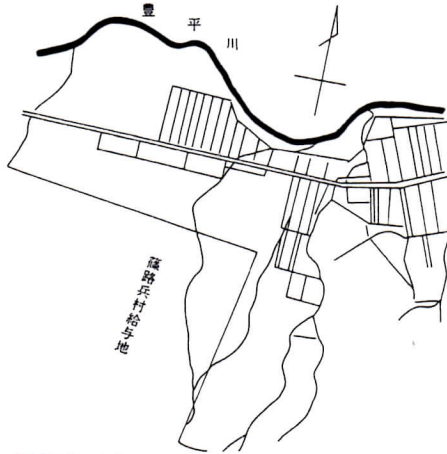
藤野地区の開拓と屯田兵の関わり

藤野地区の歩みをたどっていくと、北海道の開拓に大きな役割を果たした「屯田兵」との接点がわずかながら見えてくる。

藤野地区開基百年記念誌「風雪百年」(昭和五十九年五月発行)にも、わずかにページであるが、記述がある。(前掲書P31~32)

幕末から明治へと時代が大きく変わり、多くの改革が行われた。明治五年(一八七二)、全国に徴兵令が発せられていたが北海道までは及ばず、これに代って明治六年十二月に「屯田兵制度」が制定され、明治七年十月、本道に屯田兵制度がスタートした。

明治八年(一八七五)、琴似(現・札幌市西区琴似)に最初の入植が始まり、明治三十三年(一九〇〇)に募集を停止、明治三十七年十月に「屯田兵条例」が廃止された。



山鼻兵村開拓給与地実測図  
明治三十八年五月調査  
純面積百拾壹万九千貳百九拾貳坪式合七拾五丁  
高橋祐藏撮影

「豊平町史」より

この間、道内につくられた兵村は三十七か所に及び、戸数は七、三三七戸、人員は入植家族も含めて三九、九一人となり、北海道の開拓に大きな役割を果たしたのである。

屯田兵に対する農耕地の給与は、当初一戸当り一万五千坪が計画された。当初五千坪(宅地分を含む)、追給地五千坪、増給地五千

坪となっていた。

藤野地区内にはこれらの追給地・増給地として山鼻屯田と篠路屯田の所有地が設定された。どこの土地が誰のものであったかまでは現時点でははっきりしないが、現在の国道二三〇号線をはさんでその両側にあつたと予想されるが、やはり位置的に近かつた石山地区が多かつたことが予想される。明治以後、これらの地域の所有者はめまぐるしく変わり、区画割り測量をしたといわれているので、一般に払下げするためのものと思われる。藤野地区の開拓が遅れたのは、こうした事実があつたからと言われているが、その実態は必ずしも明らかではない。

(広報部  
平間吉春)

ふじの子育てサロンフェスタ

藤野地区の九つのサロンが、合同でさまざまな遊びを提供。

内容 ポールプールや木製遊具、大型紙芝居の読み聞かせ、乳幼児の身長・体重測定や手形・足形取り、保護者の骨密度測定など。ミニプレゼントあり(子どものみ、先着100人)。

日時 十一月二十八日(土) 十時半~十二時半。

会場 藤野地区センター。

対象 就学前のお子さんとその保護者(同伴の小学生の参加も可)。

費用 無料。

申込方法 当日直接会場へ。

詳細 藤野地区福祉のまち推進センター ☎5911508  
2、南区保育・子育て支援センター(ちあふる・みなみ) ☎215-0183



編集後記

文化展を取材した。趣味的なものから実用品的なものまで諸々である。藤野の人達のものをつくる楽しさが伝わってきた。布きれで作ったお雛様は可愛らしい。十数組のお雛様のお顔が微妙に違うからだ。既製品のお雛様にはない親しさを感じる。布きれのお雛様にはそれぞれの表情に趣があるからだろう。「みんなちがって、みんないい」、みずすの詩の一節を思い出していた。見えるようで見えない。見えないように見える。

さて「文化」とは、何か。定義は難しいが、手触りのあるものは良い。(〇)

ルピナス第九三号

・平成二十七年十一月一日発行

・発行人 寺田 良男

・編集人 森永 和雄

・印刷所 札幌大同印刷(株)

・連絡先 定塚 隆亮

・五九二一四一七八(森永)